

大阪関西万博にて国内初 合成燃料のバス走行実現

山本左近の活動はこちら



HP YouTube Facebook Twitter

今月20日、4月から開催される大阪関西万博において、大阪駅から会場までつなぐシャトルバスに**合成燃料**が使用されることが発表されました。

私は、21年の初当選直後からクリーンな未来と日本経済の好循環を生み出す切り札としてこの**合成燃料の国産化**を推進してまいりました。当初は、欧州

のバッテリー電気自動車（BEV）推進の世論誘導ともいえる大きな流れの中で、2035年以降のエンジン車の新車販売禁止」という方針が出されており、国内の政界や産業界においても合成燃料はもとよりエンジン車には大きな逆風が吹いていました。当時を考えると、次世代の科学技術が展示・実証される大阪関西万博で合成燃料が使用されることには大変感慨深いものがあります。

合成燃料は、水素と二酸化炭素を合成して作られることから「人工的な原油」とも呼ばれています。私がこの**合成燃料**を切り札と考える理由には①生成から使用の過程で二酸化炭素を増やすことがない②ガソリン同様の液体燃料を、油田を持たない

日本でも作る事ができること③既存のガソリンスタンドやエンジン車でも使用できること、などがあります。特に、日本が世界に誇る最高水準のエンジン技術を活かすことができる点は、ものづくり産業や雇用を守り、経済も豊かにする、まさに「希望の星」と言っても過言ではありません。

私はF1ドライバーとしての経験と知見から、エンジン車の価値を確信していたからこそ、「合成燃料なんて実現するはずがない」という否定的な意見がある中でも、合成燃料の必要性を訴え続けました。その結果、少しずつ理解者も増え、2022年10月には「**国産バイオ・合成燃料を推進する議員連盟**」を設立することができました。23年5月には、日本初の国産合成燃料を使用したデモ走行を富士スピードウェイにて実施。さらに24年9月にはENEOS株式会社による日本初の実証プラントの稼働が実現しました。このプラントでは、1日に約159リットルの合成燃料が製造されています。

23年3月、私が考えていた

通り、EUは過度なBEV政策から「2035年以降も合成燃料を使うに限り、エンジン車の新車販売を継続して良い」と、合成燃料を含む水素社会への実現に舵を切り始めたのです。

この流れの中で、冒頭の大阪万博における合成燃料の使用のニュースに至ります。万博のテーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」です。合成燃料と車両やエンジンとの適合性を確認できる機会になると共に、来場いただく皆さまに合成燃料が普及する未来を感じていただきたいと思えます。

今後、合成燃料の量産や利用拡大のためには、水素の調達や価格などまだまだ課題はあります。未来に目を向ければ、私が打った布石は小さな一歩かもしれませんが、しかしまっさらな土壌に埋めたひとつの種がいずれ大きな実を結ぶことを信じ、引き続き積極的に取り組んで参ります。

前衆議院議員

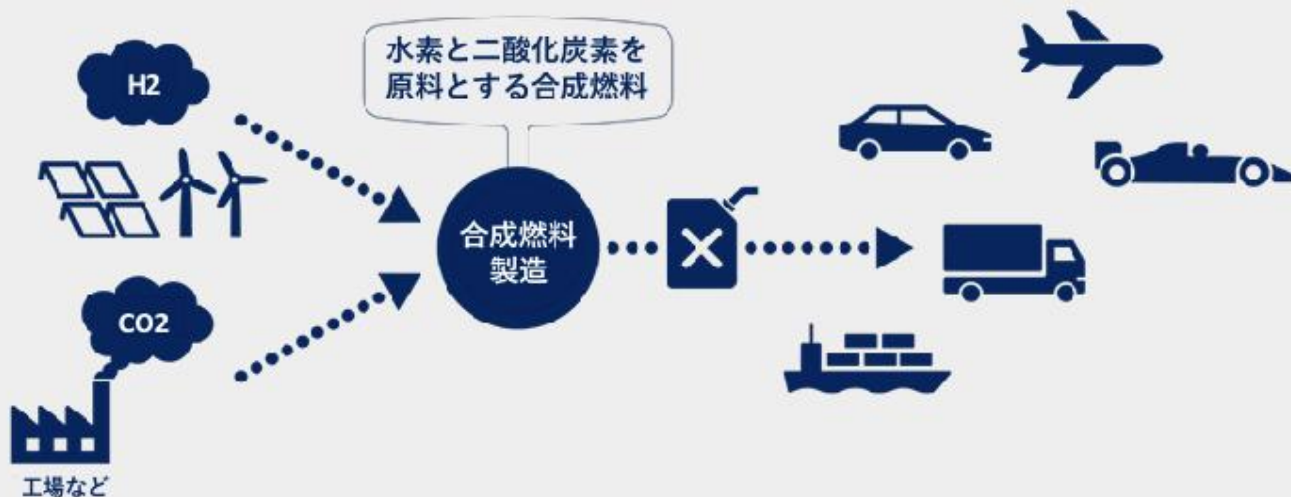


不届の
三河武士

（やまと・さこん）
愛知県豊橋市出身。1982年7月9日生まれ。42歳。豊橋南高校卒業、岡山大学。11歳レーシングキャリアスタート。19歳、単身渡欧。24歳、当時日本人最年少F1ドライバーデビュー。37歳、帰国後、医療介護福祉の世界に。医療法人・社会福祉法人さわらびグループの統括本部長就任。2019年第25回参議院議員通常選挙（比例代表）に自民党公認で立候補し、落選。2021年第43回衆議院議員総選挙（東海ブロック比例代表）に自民党公認で立候補し初当選。当選直後から、合成燃料の国産化の必要性を訴え、3年以内に日本初の実証プラントの稼働を実現した。また、2022年8月、初当選後一年に満たない中、文部科学大臣政務官兼復興大臣政務官に異例の抜擢。科学技術・文化の担務を中心に活躍。2024年第50回衆議院議員総選挙に自民党比例代表で2期目に立候補するも落選し現在に至る。英語、スペイン語を話すマルチリンガル。

合成燃料とは

合成燃料とは、CO₂（二酸化炭素）とH₂（水素）を合成して製造される燃料。石油と同じ炭化水素化合物（CH）の集合体で“人工的な原油”ともいわれ、ガソリンや灯油など、用途に合わせて自由に製造できる。原料である二酸化炭素は、大気中から直接取り込むか、発電所や工場などから排出された二酸化炭素を使って製造することから、従来の化石燃料と違い、生成から使用の過程で大気中の二酸化炭素を増やすことがない、カーボンニュートラルな燃料と言える。



2021年11月初当選直後から合成燃料の重要性和必要性を国会内外で訴えました。



2022年2月、有志でニネオス社の合成燃料の研究施設を視察。国産合成燃料の量産化を働きかけ。



2022年10月、国産バイオ・合成燃料推進議連を立ち上げ。レースにおける脱炭素燃料の使用状況を現場視察。



2023年5月、国内で初めての製造された合成燃料を使用した走行デモンストレーション



式典でご挨拶させていただいた後、デモンストレーション走行で合成燃料でもガソリンと同等の出力が出るかも確認させていただきました。



24年9月、1日約159リットルの合成燃料を製造できる実証実験プラントが完成。大気中の二酸化炭素を直接取り込み（DAC）、クリーン水素と合成する。